

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212S301	小児看護方法論Ⅱ (Child Health Nursing Practice Ⅱ)	専門教育科目 小児看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3	前	水・3, 4	幸松美智子・江藤千晴 内線： 5075 E-mail : yukimats@

【授業の概要・到達目標】

健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、健康障害のレベルに応じた看護が提供できるように、小児看護の基盤となる諸理論および専門的知識を学ぶ。

小児および家族の権利を尊重し、擁護するための知識および倫理的態度を身につける。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響について説明することができる	○			○			
2. 様々な健康レベル (急性期・慢性期・周術期・隔離・活動制限・先天性疾患等) にある子どもと家族の特性に応じた看護について説明をすることができる	○		○	○			○
3. 事例分析を通じて、科学的な根拠に基づく看護判断が下せ、問題解決に向けた援助技術を組み合わせて個別の看護を創造することができる	○		○	○			○
4. 子どもの権利を脅かす諸問題を倫理原則や倫理的意思決定モデルを用いて分析でき、小児看護に携わるものとしての倫理観のあり方を考えることができる	○		○	○			○

【授業の内容】

1～2	子どもの認知発達に応じた病気への理解を促進する看護 (ピアジェの認知発達理論に基づく)
3	病気が子どもの自我発達に及ぼす影響と看護 (エリクソンの自我発達理論に基づく)
4～5	子どものストレスの特徴とコーピングを支援する看護 (ストレス・コーピング理論に基づく)
6～7	病気の子どもの闘病意欲を高める看護 (プレパレーション・遊び)
8～14	急性期における子どもと家族への看護 (事例を用いた看護過程の展開)
15～19	各期 (回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期) にある子どもと家族への看護
20～21	先天性疾患・障害のある子どもと家族への看護
22	小児看護の課題と展望

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A : 知識の定着・確認	○	小テスト・アクションレポート	・動画を用いて病気の子どもと家族の置かれた現状の理解を助ける ・事例分析を用いた講義など、学生が主体的に授業に取り組めるようにする
B : 意見の表現・交換	○	発問、グループ検討	
C : 応用志向	○	事例検討	
D : 知識の活用・創造	○	課題レポート (社会改革に向けた提言)	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回の学習内容について配布するアクションレポートで予習する (10h)。 課題事例の看護過程の展開 (アセスメント・計画立案等) を行う (30h)。
事後学修	授業で学習した内容に関連したアクションレポートを用いて授業の復習をする (20h)。

【教科書】

中野綾美 (編) : ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①、メディカ出版、2023年
 中野綾美 (編) : ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②、メディカ出版、2023年

【参考書】

その都度提示する

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
事例に対する看護計画立案	20%	○	○	○	○
試験	80%	○	○	○	○

【注意事項】

講義で配布されるアクションレポートの提出をもって出席状況の確認を行う

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	幸美智子 (看護師) 江藤伸晴 (看護師・助産師)	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	理論や最新の知見だけを講義の中で教受するのではなく、実務経験の中で修得した知識・技術（臨床知）も講義の中や演習時で役立てる。実際の臨床でよくある看護場面や症例を用いて事例学習を実施し、知識の統合を図る	
授業形態		